



今後の高等教育院の方針について

高等教育院長・伊藤 恭彦



今年度、高等教育院長を拝命しました伊藤恭彦です。よろしくお願いします。

高等教育院は、全学的な教育改革を推進するために設置された組織です。その主な役割は

- (1) 教育の質保証のための施策の検討と各研究科・学部教育改革支援
- (2) 教育改革を進めるための科学的データの蓄積と分析
- (3) 全ての学部生に必要な基礎的な力を育成するための教養教育の企画、立案、実施
- (4) 全学語学教育の企画、立案、実施
- (5) キャリア教育やリカレント教育など各研究科・学部の枠に収まらない新しい教育プログラムの開発です。

高等教育院は今年度から専任教員12名の体制になりました。新しい体制で国の内外で活躍する人財を育成するために各研究科・学部と協力しながら新しい教育課題にチャレンジしています。ご支援とご協力をお願いいたします。

高等教育院長としての振り返りと今後期待することについて

前・高等教育院長・高石 鉄雄



高等教育院の設立から7年目のR6年度末をもって院長職を退くこととなりました。これまで高等教育院の活動にご理解とご協力を賜りました大学関係者の皆さま、そしてともに歩んできた教職員の皆さまに、心より御礼申し上げます。

高等教育院は、大学全体の教育の質保証と教育改革を担う組織として発足し、全学教養教育の名のもと、大学特色科目/初年次教育の導入、語学教育の改革など、さまざまな取り組みを進めてまいりました。これらの改革は決して、各学部・研究科の皆さまとの連携なくしては実現し得なかったものです。この場を借りて、日頃からご尽力いただいたすべての方々に深く感謝申し上げます。

また本年度から、高等教育院に4名の専任教員が新たに加わることとなり、語学講師につきましても1名の増員のみならず、同講師の専任教員化をお認めいただきました。教育改革を一層推進する上で大きな支えとなるこの増員と身分変更について、大学執行部の皆さまのご理解とご決断に改めて感謝申し上げます。

また、これら教員の選考に際し、高等教育院運営委員会メンバーとしてご参加の各学部代表の先生方に多大なるご協力をいただきましたことを、心より御礼申し上げます。

さて、院長を退任したいま、残念ながらやり残したことが3つあります。

- ◆ 1つ目は、本学が輩出を目指す人材の方向性の明確化です。本学が社会にどのような人材を輩出するのが決まらなければ、教養教育においてどのような授業科目を置くべきかを決定できません。上で触れた各学部代表はその検討メンバーとしてR6年度よりご協力をお願いしたものでした。R7年度は本学の教育の方針決定に関わる諮問委員会（未来教育構想会議）を発足させます。その委員として引き続きご協力のほど、宜しくをお願いいたします。
- ◆ 2つ目はオンデマンドおよびオンライン授業ガイドラインの作成とその教育環境整備です。R6年度まで桜山、滝子、田辺通、北千種、葵の5キャンパスでしたが、ここに名東、蒲郡が加わり計7キャンパス、R7年度1,157名だった学部生数は近い将来1,400名を越える予定です。教育の質を保証のみならず、多様で効果的/効率的かつ学修者がいつでも学べる学修環境の充実には文部科学省も推奨しています。年々多忙となる教員の研究時間確保のためにもこれらを積極的に進める必要があります。
- ◆ 3つ目は教育における国際化の推進です。語学講師の専任教員化は、教育の国際化強化のためでもあります。単位数（コマ数）に限りはありますが、各学部とも相談しながら専門教育における英語教育を検討/充実させていきたいと考えています。

これからの時代を生きる人材の育成には、単なる知識伝達にとどまらず、ディスカッション型、課題解決型といった多様な教育手法の導入/実践に加え、細かなフィードバックを通じた成長支援の仕組みが不可欠です。

こうした教育改革は、継続的に取り組んでいくべき長期的な挑戦です。新たに院長に就任された伊藤恭彦先生のもと、高等教育院が引き続き学内外の連携を深めながら、より一層実効性の高い教育改革を推進されることを心より願っております。最後になりますが、これまでの7年間、力を尽くしてくださったすべての教職員の皆さまに深く感謝を申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

寄附講座「近世名古屋学」の歩みとこれから

なごや学研究センター長・千田 嘉博

2023年から発足した寄附講座「近世名古屋学」では、学内外のみなさまのご助力を得て、活動を行ってきました。心から感謝申し上げます。活動の大きな柱になっているのが、市民に向けて開催している公開講座です。2024年度は3回実施をしました。

- ① 名古屋城の二之丸御庭、下御深井丸御庭を軸に、名古屋城調査研究センターと連携して実施した「庭園から見た名古屋城」
- ② 東海大学と名古屋市立大学のコラボレーション企画として静岡県静岡市で開催し、春風亭昇太・東海大学客員教授と議論した「静岡と名古屋の城」
- ③ 名古屋市教育委員会の最新発掘成果を軸に、坪田知広教育長、名市大の学生と共に討論した「桶狭間の戦い」

さらに名市大ブックス第20巻として『名古屋のルーツを探るなごや学』を刊行していただきました。たいへんうれしいことです。今後もさまざまな方法で市民に近世名古屋の歴史の重要性和魅力を発信し、市民と名市大をつなぐ架け橋になりたいと考えています。一層のご教導を賜りますよう、お願いいたします。



今日から使える授業のヒント

高等教育院・宮原 一弘

LiveCampusUによる出欠管理

学務情報システム（LiveCampusU）を用いた出欠管理機能が使えるようになりました。教室にて簡単な指示を出していただくだけで、学生はスマホアプリを用いて出席を登録することができます。本学では、授業への出欠管理を必ず行うこととなっておりますので、一つの手段としてご検討ください。詳しくは利用ガイド（学務情報システム → キャンパスInfo → 学内共有ファイル）をご覧ください。

PDFデータでの資料提供

タブレット端末でノートを取っている学生を見たことはないでしょうか？ 情報科目で実施したアンケートによると、新入生の約6割がタブレット端末を所有しています。彼らはタブレットでノートを取るだけでなく、配られた資料への書き込みをしたいと願っています。学生の多様な学び方をサポートするために、“紙”だけでなく“PDFファイル”での資料提供をご検討ください。学務情報システム → 授業参考情報 → 共有ファイルへの登録が便利です。

深夜の授業連絡にはご配慮ください

我々教員は深夜・早朝に業務を行うこともありますが、そういった時間帯に学務情報システムから授業連絡を送ることは避けていただくようお願いいたします。多くの学生が、連絡が届くとスマホが鳴動する設定としています。学生の活動時間帯に合わせて、送信時間の指定をお願いします。

オンデマンド、やってみませんか

1年次の情報科目は、学務情報システムとMicrosoft Stream（OneDrive）の組み合わせによるオンデマンド科目として提供しています。必修科目なので、全ての学生がこの方法による視聴を経験しており、以降のオンデマンド科目プラットフォームとして活用が可能です。オンデマンド授業を検討される際には、実施に向けた情報提供や支援をいたします。ぜひご検討ください。

※ 上記を含め、ICTを活用した教育支援につきましては教務企画課までお問い合わせください。

高等教育院通信に関するご意見・ご要望等はこちらまで ⇒ 名古屋市立大学教育研究部教務企画課

TEL: (052) 872-5882 Email: kyoumu_kikaku@sec.nagoya-cu.ac.jp

